

留学先大学： パリ第7大学
 留学先での所属学部・研究科： Lettre et Art
 留学先での在籍身分： Master 1
 留学期間： 2014 年 9 月～ 2015 年 6 月
 神戸大学での所属学部・研究科： 人文学研究科フランス文学
 学年（出発時）： Master 1
 本報告書記入日： 2014 年 12 月 22 日

出発前

どのように情報を集めましたか。参考になる本やホームページがあれば、記入してください。

フランス留学学生会のブログ。
 海外生活経験者が綴る本。

住居について

- ・住居のタイプ： 大学寮 アパート ホストファミリー その他（具体的に） _____
 住居（寮、アパート）の名前： LA RESIDENCE PITIE-SALPETRIERE
- ・部屋の種類： 一人部屋 二人部屋 その他（具体的に） _____
- ・ルームメイト： 現地学生 留学生（出身国： _____） その他（具体的に） _____
- ・どのように探しましたか。： 大学の斡旋 自分で探した その他（具体的に） _____
- ・大学までの通学時間・手段： _____ 20分、電車と徒歩
- ・住居の周りの環境はどうか。：

近くに医療系の大学があるので学生が多くいつも賑わっています。夜も比較的治安は良いほうです。スーパーやレストラン、パン屋も揃い、市内へのアクセスも良いです。

- ・毎日の食事はどうしていますか。：

朝はパンを焼いて簡単に済ませます。昼は食堂や売店、近くのファストフードのお店で食べることが多いです。夜は自分で作っています。

- ・住居は渡航前に、または渡航後すぐにみつかりましたか。トラブルはありませんでしたか。：

はじめて部屋に入ったときにトイレやお風呂、冷蔵庫などが壊れていないか、窓の外に鳥の巣はないか確認してください。一つ目の部屋のトイレが壊れていて部屋を変えてもらいました。

大学の授業について

1. 履修登録について

- ・履修登録の時期： 出発前 到着後
- ・履修登録の方法： On-line International Office等の仲介 その他（具体的に） _____
- ・登録時に留学生として優先・配慮されることはありましたか。： 無し 有り
- ・優先・配慮があった場合、具体的に教えてください。

- ・希望通りの授業が履修できましたか。： はい いいえ
- ・希望通りの授業が履修できなかった場合、その理由を教えてください。

2. 現在までに、履修している授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習, 復習, テスト等についてアドバイスも 含めて教えてください。
1	FLE GRAMMAIRE		2	2	15	オリジナルのテキストが配布されます。
2	FEL ECRI		2	2	20	毎回、テーマに沿った作文や、記事の要約が課されます。
3	INITIATION D'ECRITURE		3	4	30	毎回テーマに沿った作文を提出させられます。
4	SCIENCES HUMAINES		2	2	40	テストはノートを友達に見せてもらって何とか乗り切ってください。
5	LITTERATURE ET CINEMA		2	2	30	留学生向けに1対1の口頭発表が課されます。
6						
7						
8						
9						
10						

3. 授業（カリキュラム等）について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

私語はともかく、日本の学生のように寝ている学生は全くおらず、積極的に質問、意見し、授業中の議論が絶えません。

一週間のスケジュール（授業時間、課外活動等、毎日の生活を記入してください。）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00	友人との	10:00	10:00-	10:00	読書会	勉強、外	勉強、外
9:00	ランゲー	-12:	12:00	0-1	日仏アソ	出	出
10:00	ジ・エク	00	0 授業	2:00	シエー		
11:00	スチエン	15:00		14:00	ション		
12:00	ジ	-18:	午後は友	0-1			
13:00	1週間分の	00	人に授業	6:00			
14:00	食材まと	授業	内容につ	授業			
15:00	め買い		いて質問				
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							

現在までの感想 自由に記入してください。（800字〜）

8月末にパリに着いたころにはまだまだ観光客気分、パリの街中を歩いて回り、何かを見ては感動していました。しかし一旦学生としての生活が始まると、初めての一人暮らしというもあり、その手続きの多さには驚きを隠せませんでした。当初は家や大学の周辺以外に足を延ばす余裕はほとんどありませんでしたが、あらゆる不安をパリの歴史の靄に包み隠してもらおうとたまたまに街に繰り出したときには、犬の糞を2回も踏んでしまいました。「パリ症候群」なんて言葉がWikipediaにも載っているくらいですが、パリの現実をこの身を張って知ったような気がしました。

しかし、街は冷たいけれどパリの人は意外に温かい、というのが旅行した時に受けたものとは異なる印象です。道を聞けば丁寧に教えてくれますし、バーで話しかけても快く応えてくれます。それでもこちらから話しかけないと迎えてはくれませんが……。言語の壁があるところまでtimideになるのかと悩むことがよくありましたが、最近はとにかく自分のボキャブラリーを汲みつくす勢いで、話しかけるようにしています。「留学生」というタスキを掛けているおかげで、先生も学生も私の話を理解しようと耳を傾けてくれますし、どうにか理解できるようにと簡単な言葉を選んで、ゆっくりと話してくれます。そのおかげか、最近は、人間関係では特に苦勞せずに毎日を過ごしています。

それでも授業では、先生の話についていくので精一杯です。言葉の滝に打たれているようで、息が出来なくなることもあります。少し大げさに言いましたが、最初の3か月は本当に辛くて、何度も授業をサボりたいと思いました。しかし、毎回必死に耳を傾けているうち、ふと単語だけではなく一文ごと拾えるようになったときには、ノートの上を嬉々とペンが走ります。その時の気持ちは母語環境にいては決して味わえないものでしょう。

休日は、いろいろなものに「触れ」てみよう、できるだけ外に出ることにしています。実際に触ってみるだけでなく、見て、聞いて、嗅いで、味わって。パリの街以外にもフランスの様々な地域圏、他の国々に足を延ばして、様々な刺激を全身で感じるようにしています。座学で学んできたものに生で「触れ」られる機会ほど、学生として報われる瞬間はないように思います。文学、歴史、文化それぞれにおける知識でしかなかったものが、分野の境目を横断し、目の前で1つに繋がっていく瞬間、そしてそうした知識を以てしても語り尽くせないものが目の前に広がる瞬間は、何度味わっても飽きることはありません。

つらつらと語ってしまいましたが、こうした留学経験こそ、まさに言葉では語り尽くせないものであり、その身を以て感じるべきものであるように思います。何よりも、貴重な経験をさせて下さった親や先生方に感謝申し上げたいと存じます。